

15:25 ユダの王アサの第二年に、ヤロブアムの子ナダブがイスラエルの王となり、二年間イスラエルの王であった。

15:26 彼は【主】の目に悪であることを行い、彼の父の道に歩み、父がイスラエルに犯させた罪の道歩んだ。

15:27 イッサカルの家のアヒヤの子バアシャは、彼に謀反を企てた。バアシャはペリシテ人のギベトンで彼を討った。ナダブとイスラエル全軍はギベトンを攻め囲んでいたのである。

15:28 こうして、バアシャはユダの王アサの第三年にナダブを殺し、彼に代わって王となった。

15:29 彼は王となったとき、ヤロブアムの全家を討ち、ヤロブアムに属する息ある者を一人も残さず、根絶やしにした。【主】がそのしもべ、シロ人アヒヤを通して言われたことばのとおりであった。

15:30 これはヤロブアムが犯した罪のゆえ、またイスラエルに犯させた罪のゆえであり、彼が引き起こしたイスラエルの神、【主】の怒りによるものであった。

15:31 ナダブについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

15:32 アサとイスラエルの王バアシャの間には、彼らが生きている間、戦いがあった。

北王国イスラエルの王ヤロブアムは、ユダに対抗するために勝手に主への礼拝の場所と方法を作り出し、主の命令に背く祭儀を行ったために、主からその滅亡が宣言されました。そして結果は全くその通りのものでした。

彼の不信仰は子どもナダブに受け継がれ、王となっても「彼の父の道に歩み、父がイスラエルに犯させた罪の道歩んだ。」とあります。それで彼の在位は2年間だけでした。またその最後は悲惨なもので、謀反によって王位が奪われ、血族は皆殺しにされたのです。

ナダブの祖父であるヤロブアムは、自分の王位を守るために、人心をまとめる目的で勝手な祭儀を始めました。すなわち安心のために主に背くことを選んだのですが、その結果は逆で、安心どころか滅びを招きました。

多くの不信仰は、自分を守りたいという動機から来る場合が多いようです。しかし、本当の安心は主から来るのだということを忘れないようにしましょう。主の愛と真実を無視する生き方は、そのときには良く見えても、必ず破綻してしまうからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

